熊本県
和水町

八つの神様ご利益めぐりエリアマップ

■「神様めぐり」
距離の目安

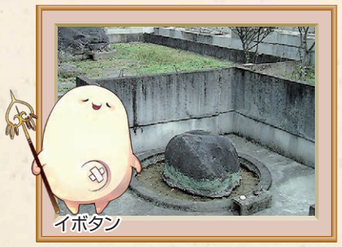
❶ 0.8km ❷ 1.6km ❸ 0.8km ❹ 0.3km ❺ 1.5km ❻ 3km ❼ 3.2km ❽

❻ 命の神様

❹ 性・腰の神様

❸ 胃の神様

❷ イボの神様



❺ 歯の神様

❶ 目の神様

❼ 耳の神様

❽ 手足の神様

WC ＝トイレ

ふるさとガイドのご案内

ガイドさんが神様を一緒にめぐりながら案内されます。
料金は２ヶ所目まで1,500円
３ヶ所目からは500円が加算されます。
（一週間前要予約）
和水町役場商工観光課
☎0968-86-5725

お食事処（市外局番0968）

A	三加和温泉 ふるさと交流センター	☎34-2249
B	味千ラーメン三加和店	☎34-2439
C	紋次郎	☎34-4003

■ 交通のごあんない

- 南関 I.Cより車で15分
- 菊水 I.Cより車で15分

●三加和温泉
ふるさと交流センター
☎0968-34-2249
大浴場、露天風呂、家族湯などバラエティに富んだ浴槽を備えた温泉とステージ付大広間、中・小広間、休憩室、食堂、特産品展示即売コーナーからなる健康レクリエーション施設です。

●緑彩館
☎ 0968-34-4222
地元の新鮮野菜の直売所です。

お問い合わせは
和水町役場商工観光課
〒865-0192　熊本県玉名郡和水町江田3886
TEL 0968-86-5725　FAX 0968-86-4660

熊本県 和水町『八つの神様』

治らぬ病の神頼み

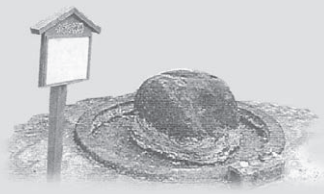
霊験あらたかなる八つの神様

① 目の神様 岩本宮（いわもとぐう）

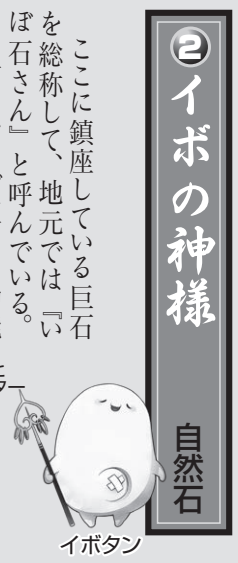
戦国時代、肥前の龍造寺軍勢が神尾城（城主大津山家稜）を攻めた時、一人の手負いの武士が、この岩壁の中腹の藤かずらにひっかかり宙吊りになっていたのを小次郎丸の村人達が見つけ下ろしてやったものの、敵の侍と知り怖さのあまり、鋤・鍬等で打ちころしてしまったという。その武将は岩本と名のったという。村人たちは、敵将とはいえ惨殺したことを後悔して、この地に手厚く葬り、いつの頃からか小さなお堂が建てられ、それを岩本神社と称し、通称『岩本さん』と呼ぶようになった。それ以来村人達は、無病息災・家内安泰の祈願所としてたてまつり、又特に目の病に霊験あらたかな神様として祀るようになったと言われている。

アイラちゃん

② イボの神様 自然石



ここに鎮座している巨石を総称して、地元では『いぼ石さん』と呼んでいる。この石は、いぼ取りに効能のある神様として、昔から参詣する人が多く、いぼで悩んでおられる方々の祈願所として祀られている。願たての祈りは、自分の年齢の数だけ煎った大豆を献上し、石の上に患部をすりつける習わしがあり、御願成就の際は、必ずお礼参りをすることになっている。


イボタン

③ 胃の神様 石祠（いしほこら）

昔は、正月や例祭日には、近所はもちろん遠方からも大勢の参拝者があったと言われている。地元では昔から『胃病に御利益がある神さま』との言い伝えがあり、胃痛の治療祈願の折には、どじょうを参道途中の池に入れてお供えする習わしがあったという。昔から、胃弱の人が、お参りを続けると不思議にも元気を取り戻すという霊験あらたかな神様の一つである。

祭神…徳川家康
みいちゃん

④ 性・腰の神様 七郎神（しちろうじん）（塩井谷神社（しおいだに））

正治二年（西暦1200年）十二月四日、坂梨家の祖である坂梨弥五助は、土地鎮護と農耕開拓の守護神として、肥後一の宮阿蘇神社本宮より、御分霊を戴き、この吉地村に下り、山森阿蘇神社を創建したと言われている。その時、供養者の一人として同行してきた坂梨七郎右衛門は、この塩井谷に住居を構え、農耕技術の普及に貢献したと伝えられている。村人達は、七郎右衛門の地域では、毎年農作物の豊作を祈願し、種の繁殖・増強とともに、生むは産むに通じ、子孫繁栄・安産・夫婦和合の神様として、蔭茎弱き人、子宝に恵まれない人、縁遠き男女、夜尿病、足腰の病等諸病に悩む人々それぞれに霊験があり、現に受児除災、蔭茎弱き人、足腰の病等著しき御霊験を受けて歓喜している事実がある。信仰・祈願する人は、作りものの男根を奉納する習わしがあり、御願成就のあかつきには、男は白色、女は赤色の布に住所・氏名・年齢を書いてお礼参りをする風習がある。

祭神…坂梨七郎右衛門
まこちゃん

⑤ 歯の神様 墓石（板碑）

歯の形に良く似た墓石（板碑）は、鎌倉時代から室町時代にかけて造立されたのではないかと推測される。その両脇にある宝筐印塔と五輪塔の存在がそれを示しているが、定かではない。いずれも、先亡者の供養や墓石として作られたものと思われるが、地元では昔から歯の神様として信仰してきた。歯がうずく時には、白砂又は米をお供えして参拝する習わしがあり、不思議なことに歯の痛みを鎮めてくれるという日本でも珍しい神様である。

祭神…自然石
はのちゃん

⑥ 命の神様 石祠（いしほこら）

遠野立神（とおのたつじん）

御神体は石である。昔から『命助けの神様』と言われ、生死にかかわる病気の時、一生に一度だけ平癒を願えば、必ず叶えられると言われている。地元では『坂梨弥五助が山森阿蘇神社を勧請した折に建立されたのではないか』と言われている。八つの神様の中でも命に関わる神様として異色の存在である。

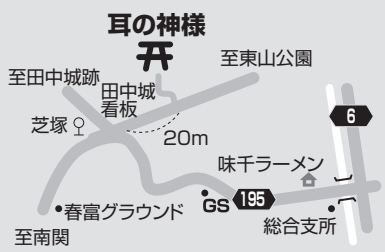
ギンくん

⑦ 耳の神様 墓石

柳川由布大炊助の墓（やながわゆふおおいのすけのはか）

天正十五年（西暦1587年）十二月、佐々成政の要請を受け、和仁一族の田中城攻めに参戦した大炊助は、豊後由布氏の一族で、筑後柳川城主・立花宗茂の家人であった。騎馬大将として先頭に立ち、大手門より攻めいく中で、家来から『あぶのうござる！お下がり下されー』と強く注意されるも、もともと耳の不自由な大炊助には届かず、城中から放たれた矢に胸を射抜かれ討ち死にしたという。それを伝え聞いた村人達は、大炊助を丁重に葬り代々供養をし続けてきたことが、語り継がれている。墓前には、火吹き竹が供えられ『耳の神様』として祀られている。

刻銘…柳川由布大炊助墓、裏・由来彫字



みゆうちゃん

⑧ 手足の神様 石祠（いしほこら）

立山の足手荒神（たてやまのあしてこうじん）

立山の足手荒神は、その昔六嘉（現在の上益城郡嘉島町）の足手荒神を分霊して当地に祭祀したと言われており、現在も当時のままの状態で安置されている。足手荒神前の小さな池には以前は白い水がこんこんと湧き出ていたそうであるが、水量は減ったものの今も白い水が同様に湧き出ている。それを伝える伝承話に『竜神がくれた乳の水』として、今も語り継がれている。足手荒神さんと白い水は、昔から深いかかわりがあり、霊験あらたかな祈願所として、静かなブームを呼んでいる。

ぴょんすけくん